国立科学博物館附属自然教育園における入園者実態調査について

鶴田総一郎* ・ 桜井　信夫

Visitors survey in the National Park for Nature Study

Tsuruta Soichiro and Nobuo Sakurai

は じ め に

博物館法によれば，博物館の設置・目的・事業について，概略つぎのように定められている。すなわち「社会教育法の精神にもとづき，国民の教育，学術および文化の発展に寄与することを目的として設置され，この目的を達成するため，博物館資料の収集，整理保管および展示等を実施し，一般公衆にこれら資料の利用，さらに必要な説明，助言，指導等種々の教育普及事業を実施し，あわせて，これらについての調査研究を実施することである。」と。したがって，博物館は，人々を集め，そこで展示・案内等，それぞれ種々のまた固有の教育普及事業を通して，博物館法のいう目的の達成を図っているといえようし，またこのように，博物館に集まる人々に対して，より効果的に，より適切な事業を実施することは，博物館の大きな使命の１つであるといわざるを得ない。

したがって，入園者の実態をいろいろな角度からとらえ，その一般的な傾向や特性等を適格に知ることは，より効果的なより適切な教育事業の実施，ひいては資料収集，調査研究につながる基礎資料となるといえよう。

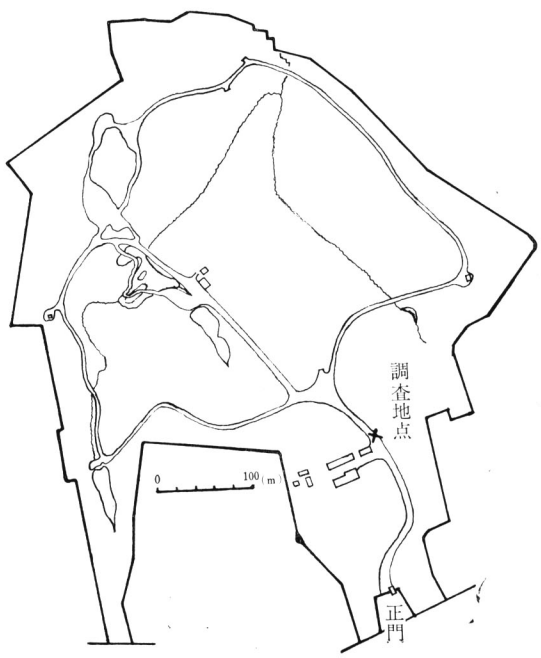
このような意味から，どのような職業をもったどのような年令層の人々が，どの地域から何を利用して来園しているかという入園者の一般的条件の実態を調査し，これら一般的条件を有する人々が，どのような方法で本園を知り，だれと，どんな所だと思って来園し，どのような目的で，どのように利用しているかなど，もっとも基本的な問題をとりあげ，その実態を調査し，今後，自然教育園における博物館活動，とくに園内における教育普及事業のあり方やその方向づけなどの基礎的資料として活用したい。

*現在，国立科学博物館事業部長兼国立科学博物館附属自然教育園次長

調査方法および期間

本園は，いわゆる野外自然博物館であり，公開地域はすべて野外という特性をもっている。したがって一年を通じてそれぞれの日の入園者数は，一般に動物園や植物園にみられると同様，天候や季節による変動が認められ一定でない。そのため，入園者数の少ない12月から２月までを除き，比較的安定している３月下旬から11月上旬までを対象とし，この期間中でも，雨天は入園者数の減少が顕著に現われるので，これを除外した。

つぎに，休日（日曜および国民の祝日）と平日との入園者数および入園者層の相違が若干認められることから，



第１図　調査地点

休日，平日および子どもが休みの平日（学校が休みの平日）に層別し，このなかからランダムに7日間を抽出し，調査を実施する方法をとった。

なお，本園は，通常9時から16時30分まで在園可能であるが，11時ごろから13時30分ごろまでの入園者が多く，在園時間は，30分以上2時間までがもっとも多い。また，13時から16時までに退園する者は，全体の6～7割という結果が，すでに得られているので，調査時間は13時から16時までとし，この間に退園する者全員に対し調査を行なった。

また，調査は，第1図に示した地点で別紙調査用紙を手渡し，その場で被調査者に記入させる方法を用いた。ただし，就学前の幼児は，この調査の対象外とした。

調査結果および考察

上記の方法で実施した結果，調査対象人数は，1934名であった。内訳は，男性1046名，女性888名で，その比率は，男54%，女46%とほぼ1.2：1となった。また，調査日それぞれの入退園のようすは，模式的には，第2図に示した曲線が得られ，昭和37年以前の傾向とほぼ同様であった。

つぎに，調査項目順に調査結果を示すと，つぎのようになった。

I　被調査者の一般的条件

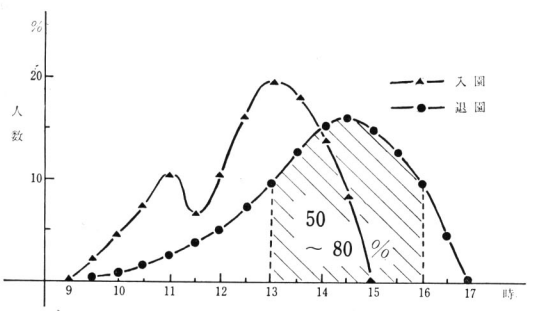
1）　年令別内訳について

性別および季節などにあまり関係なく，小学生から老人まで利用しているが，とくに，中学生または大学生および20～24才に集中している。この在学中の利用者を年令におきかえて示すと，第3図のようになり，20～24才の1個所に集中する。すなわち，小学生から20代までの利用者数を，全利用者に対する百分率で示すと，平日，学校が休みの平日，休日を通じて，63～91.5%となり，その平均は76.7%を示す。また，30代までを含めれば，その平均は実に88%を示すことから，本園利用者の大部分は，30代までの若い人々によって占められているといえよう。

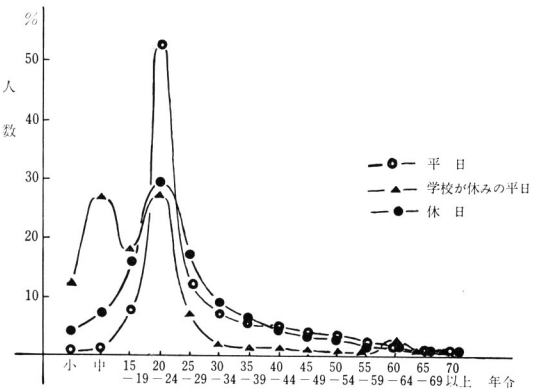
ついで，平日，学校が休みの平日，休日ごとに，性別による率を示したものが，第4図である。全体的には，平日および学校が休みの平日の場合は学生・生徒に，休日では，20～24才の方に高い集中度を示し，性別では，これら日による差はなく，男性の場合，大学生および25～29才に，また女性では中学生および20～24才に集中している。このことから，女性は男性に比べ，やや若い世代に多く利用されていることが明らかである。

2）　居住地別内訳について

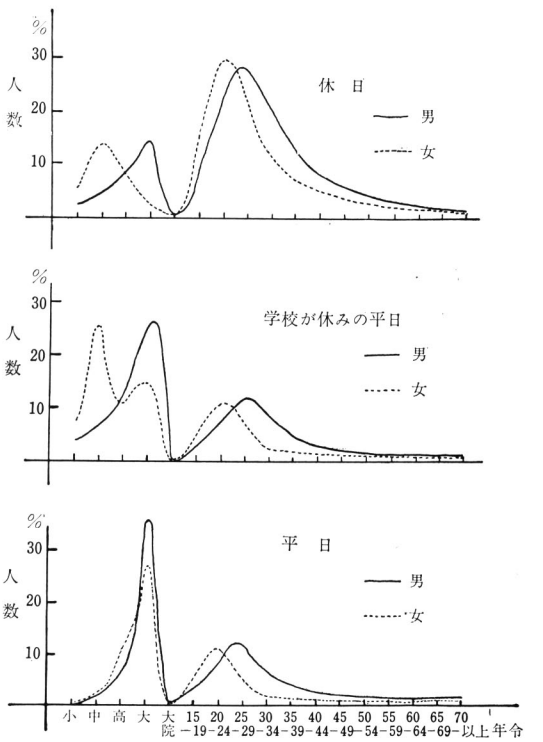
利用者の居住地別内訳を一応行政区にしたがって，本園にもっとも近い地域をA地区（港，品川，目黒，渋谷の各区）とし，ついで近い地域をB地区（中央，千代田，



第2図　入退園者の一般的傾向模式図



第3図　年令構成

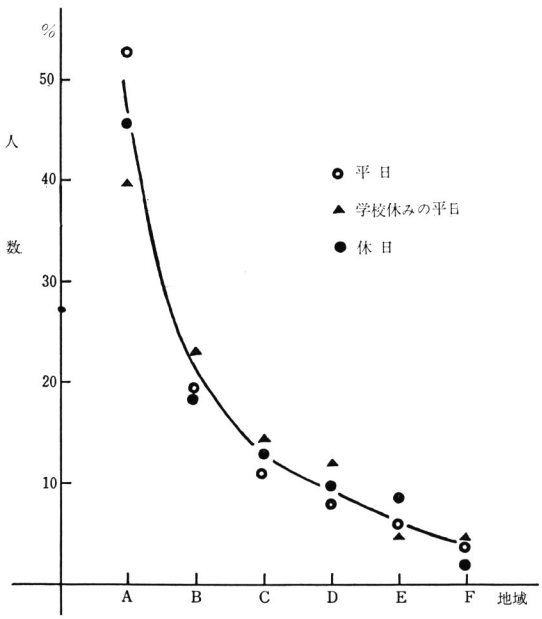


第4図　性別，休日・平日等別年令構成の傾向模式図

新宿，世田ケ谷，大田の各区），C地区（杉並，中野，豊島，文京，台東，荒川，墨田，江東の各区），D地区（A，B，C地区以外の東京都全部），E地区（神奈川，千葉，埼玉の各県），F地区（その他の地域全部）の6段階にわけ，その内訳を図示したのが，第5図である。

このことは，それぞれの地域における居住人口が，F＞E＞D＞C＞B＞Aの順に減少しているにもかかわらず，利用者は，性別，曜日，季節などに関係なく，A＞B＞C＞D＞E＞Fの順に幾何級数的な減少を示していることを物語っている。

すなわち，A地区の利用者は，全利用者の平均約47%を占め，B地区を含め考え合わせると，実に本園利用者の約7割を占めていることになる。これは，比較的近距離の人々が利用者の大部分を占めていることを意味するものである。



第5図　地域別入園者内訳

3）職業別内訳について

職業別内訳は，第1表に示すとおりである。

全体的には，学生・生徒・児童が33%ついで会社員23%，無職13%とつづいている。これを性別にみると，男性では，会社員および学生・生徒・児童が約6割をしめ，女性では，学生・生徒・児童が多く，ついで無職，会社員となり，これら3項目で女性利用者の約8割をしめている。また，教職員利用者が全体を通じ，わずか2.3%という結果であった。

4）本園に到達する方法の内訳について

本園に到達する方法の内訳は，第2表のとおりである。

とくに目立つことは，国電利用者が多く，ついで徒歩，目蒲線利用者と続いていることである。徒歩は，いうまでもなくⅠ—2）でのべたA地区の一部分の人々に，目蒲線は，目黒，大田，世田ケ谷，品川の各区の一部分の人々などによって利用されているものであり，国電にいたっては，それ以外の大部分の地域の人々によって利用されているであろうことを考えあわせれば，当然のこととともいえる。徒歩が第2位であるのは，本園が周辺地域の人々に比較的多く利用されていることを示しているが，積極的なPRを行なっていないことや創立15年ということにも遠因があろう。

また，全体的には，目黒から本園にくる者が約6割をしめ，徒歩が2割，自家用車7%，白金台町から7%その他6%となっている。しかし，白金台町あるいは，その他の一部は目黒経由も含まれ，目黒経由は約7割，徒歩2割ともいえる。なお，今後，自動車の普及によって，自家用車が増加することが予想されよう。

Ⅱ　調査事項

1）「本園のあることをどのような方法で知りましたか」について

第1表　職業別内訳表

項目 / 性別 / 調査回数	無職		教職員		学生・生徒・児童		公務員		園芸・農業等		芸能・娯楽等		教育・文化施設		店員		会社員		その他		無答	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
第1回	3	36	9	0	58	57	14	5	3	0	1	0	15	5	4	1	66	35	31	15	2	7
第2回	2	49	6	2	56	37	24	11	2	0	1	0	16	7	1	0	89	30	25	12	3	7
第3回	0	9	2	0	58	52	0	1	1	0	2	0	5	1	0	0	5	1	3	0	0	1
第4回	3	49	6	4	48	51	11	13	1	1	0	1	16	10	12	2	53	16	14	4	4	7
第5回	7	58	6	5	59	65	27	9	3	0	5	2	40	15	6	4	84	38	10	12	14	22
第6回	4	25	0	0	49	30	2	1	0	0	2	1	7	2	1	2	13	2	9	6	0	0
第7回	0	10	1	2	8	4	2	1	0	0	2	0	5	2	0	0	4	0	1	1	0	0
男女別計	19	236	30	13	336	296	80	41	10	1	13	4	104	42	24	9	314	122	93	50	23	44
総計	255		43		632		121		11		17		146		33		436		143		67	

第 2 表　本園に到達する方法の内訳表

項目 / 性別 / 調査回数	自宅から徒歩		自転車		タクシー		自家用車		白金台町 都電		白金台町 バス		目黒 目蒲線		目黒 国電		目黒 バス		上大崎 都電		上大崎 バス		無答	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
第 1 回	37	36	4	0	4	3	23	14	4	3	11	9	16	10	89	70	11	13	2	1	4	2	1	0
第 2 回	71	47	3	0	8	3	14	8	8	5	9	9	17	11	67	58	14	11	3	0	9	3	2	0
第 3 回	16	29	0	0	1	1	4	2	2	0	1	3	8	2	26	20	10	5	0	0	3	1	5	2
第 4 回	18	19	0	0	9	9	7	4	2	5	9	4	28	29	78	85	12	16	3	12	1	1	1	4
第 5 回	50	35	2	0	16	17	16	16	11	6	6	4	24	19	114	114	11	8	3	0	5	6	3	5
第 6 回	7	14	3	0	6	2	4	13	1	2	6	7	4	4	49	17	5	8	0	0	2	2	0	0
第 7 回	2	5	0	0	2	2	2	3	0	0	2	0	4	2	8	8	1	0	0	0	2	0	0	0
男女別計	201	185	12	0	46	37	70	60	28	21	44	36	101	77	431	372	64	61	11	13	26	15	12	11
総計	386		12		83		130		49		80		178		803		125		24		41		23	

これについての解答内訳は，つぎの第３表に示した。

全体を通じ，「友人等から本園のあることを聞いて知った」と答えた者が34%，「住んでいる間になんとなく知った」と答えたもの22%となり，この両者で56%をしめている。とくに，友人，学校，家庭，職場などの人から教えられて来園している者が約半数をしめている。

この結果と居住地との関係は，周辺の人々では，「住んでいる間になんとなく」と解答した者が多く，「人に聞いて知った」と解答した内訳をみると，周辺の一部と遠距離にいる大部分の人々である。このことは，前述のように，積極的にＰＲしないことや創立15年ということに原因があると推測される。

この１例として，３月下旬の解答と７月以後のそれを比較すると，７月以後には，新聞や雑誌で知った者が増加している点があげられる。これは，都会の中の緑のオアシスなどとして新聞や雑誌にとりあげられた結果が，このような傾向となって現われたものと思われる。一方入園者が年々増加していることは，人づてに聞いて，少しづつではあるが知れ渡りはじめていることを裏付けているものと想像される。

性別による特徴は，男性の場合には，以上述べた全体の傾向とほぼ一致しているが，女性の場合，家庭で知った者が男性の約２倍になっていることが注目される。

2)　「今までに何回来園しましたか」について

はじめて来園した者が非常に多く，全体の約６割をしめ，来園回数が増加するにつれて，利用者数は減少している。これを百分率にして，グラフに示したのが第６図である。この減少の傾向は，級数的な減少を示し，10回以上の者で，ある程度の立直りが認められる。

つぎに，居住地別に示したのが第７図である。この図からも明らかなように，遠距離ほど，はじめての来園者が多い。すなわち，Ａ地区からの来園者中はじめての者は，男女とも約４割であるのに対し，Ｂ地区は男性５割，女性約７割，Ｃ地区以遠は７～８割となっている。さらに，１回来園した者まで含めれば，Ａ地区では55%，Ｂ地区84%，Ｃ地区84%，Ｄ地区88%，Ｅ地区93%，Ｆ地

第 3 表　「本園をどのようにして知りましたか」内訳表

項目 / 性別 / 調査回数	友人から		家庭で		学校で		職場で		新聞・雑誌等		ラジオで		テレビで		自分の所属している会で		観光宣伝で		住んでいる間になんとなく		その他		無答	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
第 1 回	73	75	14	23	12	6	13	8	19	9	1	1	0	0	5	8	0	0	55	29	12	0	2	2
第 2 回	53	51	26	30	12	14	6	5	25	11	1	0	0	0	1	0	3	0	80	36	18	4	0	4
第 3 回	27	29	10	14	8	1	0	0	7	1	1	0	1	0	1	0	0	0	17	19	3	0	1	1
第 4 回	42	63	16	33	14	7	0	3	37	36	2	1	0	0	14	5	1	3	31	27	7	8	3	2
第 5 回	84	79	19	42	11	14	7	4	54	48	2	0	2	2	5	1	0	0	53	35	12	1	12	4
第 6 回	40	27	2	7	5	1	3	0	16	12	2	0	0	1	2	0	1	0	14	15	2	6	0	0
第 7 回	6	3	1	3	0	3	2	1	5	6	0	0	0	0	1	1	0	0	6	3	1	0	1	0
男女別計	325	327	88	152	62	46	31	21	163	123	9	2	3	3	29	15	5	3	256	164	55	19	19	13
総計	652		240		108		52		286		11		6		44		8		420		74		32	

区99%となっている。したがって，3回あるいは4～5回以上来園している者の大部分は，A地区からである。

3）「はじめて来園したのは，どのような年代でしたか」について

解答内訳は，第4表のとおりである。

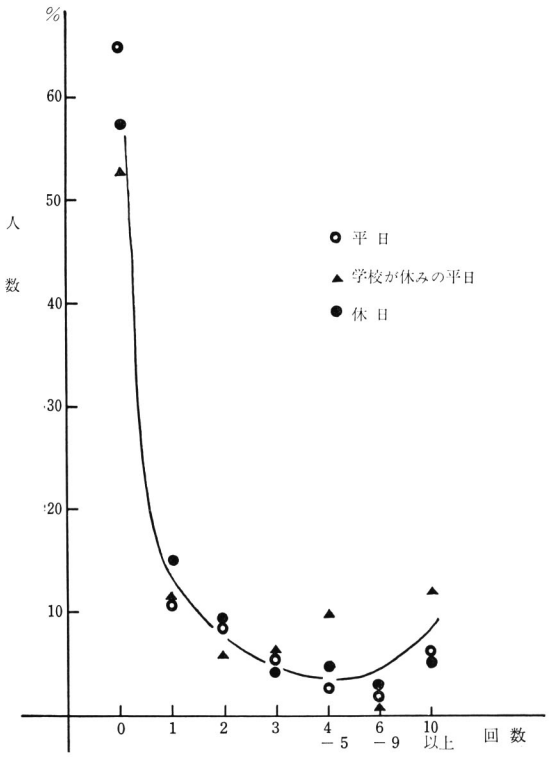
「学校卒業後結婚までの間」が24.5%，「結婚後」が20.4%，「大学」11.2%，「小学校」10.8%とつづいている。これは，本園には若い世代の利用者が多いこと（Ⅰ—2）参照），はじめて来園する者が多いこと（Ⅱ—2）参照）および本園が創立15年であることなどを考えあわせれば当然のことかも知れない。

また，「小学校」が約1割あるが，本園では，小学生単独の入園ができないことから，家族あるいは学校団体としてはじめて入園したものが大部分であろう。実際，学校団体として，はじめて入園したものが，80%を占めていることは興味がある。

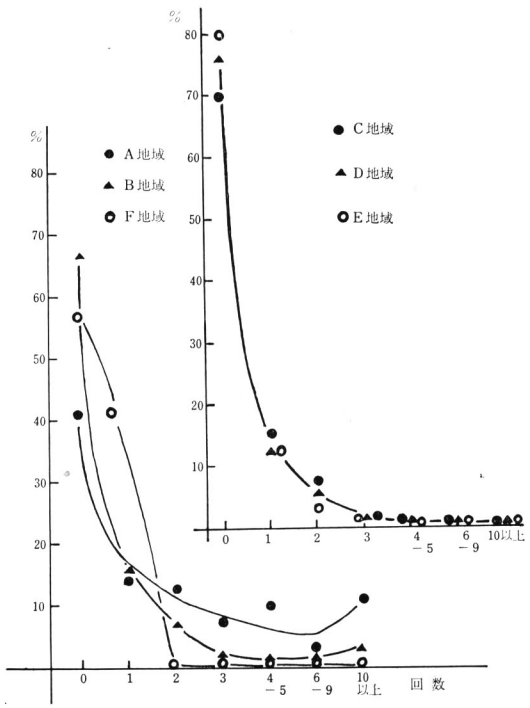
4）「きょうは，だれときましたか」について

来園者のグループ構成は，第5表のとおりである。

全体的には，「友人と」および「家族と」と解答した者が大部分で82%をしめ，ついで「1人で」と解答した者となっている。この3項目をあわせれば，実に全体の



第6図 来園回数内訳



第7図 地域別にみた来園回数内訳

第4表 はじめて入園した年代内訳

項目 / 調査回数 / 性別	就学前		小学校		中学校		高校		大学		15～18		学校卒業結婚まで		結婚後		はっきりしない		無答	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
第1回	2	4	22	19	5	19	21	11	13	6	2	3	48	45	40	23	3	1	50	30
第2回	5	1	16	21	20	8	20	3	18	9	1	0	45	38	54	36	4	1	42	38
第3回	1	6	22	12	12	23	10	4	16	2	1	1	5	7	5	2	0	1	4	7
第4回	1	4	16	23	7	10	13	14	16	8	3	2	40	55	35	47	1	3	36	22
第5回	6	7	20	21	9	13	15	15	29	15	4	8	92	93	75	33	4	0	7	25
第6回	1	0	1	5	1	3	4	2	41	28	1	0	14	15	17	11	0	0	7	5
第7回	1	1	2	1	2	0	1	0	5	4	1	1	5	3	6	0	0	0	0	0
男女別計	17	23	99	105	56	76	84	49	138	72	13	15	204	256	232	152	12	6	146	127
総計	40		201		132		133		210		28		460		384		18		273	

94%となった。したがって，友人どうしが誘いあい，また家族の者がそろって来園することが多いといえよう。さらに，グループ単位でみると，友人と来園しているのが6割，家族が2割となる。このように友人と来園する場合が多いということは，Ⅱ—1）およびⅡ—2）の結果などと考え合わせると，ある程度うなづける。

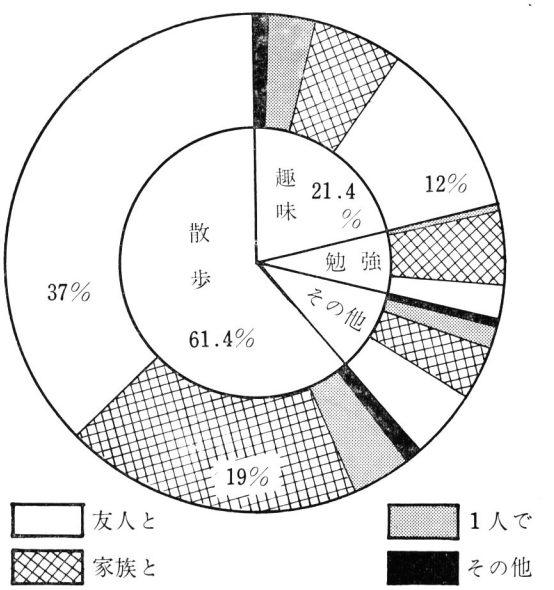
性別による差は，「1人で」にみられ，男性で14%，女性では4.5%となっている。また人数のうえでは4：1の割り合いとなる。「友人と」では，男：女が1.4：1の割り合いであるのに対し，男性49%，女性54%とやや女性に多い傾向を示した。

5）「きょうは，何のために来園したのですか」について

来園目的のうち散歩（レクリェーション）が全体の61%と約6割を示し，ついで「自然物に趣味を持っているから」および「写生・俳句・写真をとりに」と解答したもので，それぞれ1割，「勉強のため」1割弱，残り1割は「特別の目的なし」と解答している。この傾向は，性別による差は，ほとんどないとみてさしつかえない。このように散歩（レクリェーション）が6割を示しているが，この傾向が強いからといって，博物館として適当でないということはあたらない。しかも本園が，武蔵野の自然を残しているという，野外自然博物館である以上，散歩（レクリェーション）という形で利用されていることは，いろいろな理屈をぬきにして，自然の美しさ，静かさなどに自らを楽しむ人が多いことを示しているといえよう。そのうえ，自然物に趣味を持っているからと解答した者が常に1割いること，また写生・俳句・写真をとりに来ている人々が7月以後増加の傾向を示していること，このほか自分自身や子どもの勉強のため来園するものが平均して常に1割を示すことなど，東京が都市化するにつれて，本園の存在意義がますます重要なものとなり，明確になるといっても過言ではないことを示しているといえよう。

また，来園目的を散歩（レクリェーション）と「写生・俳句・写真をとりに」および「自然物に趣味をもっているから」と解答した者を趣味，さらに「子どもの勉強」，「自分の勉強」をあわせ勉強，それ以外のその他の4項目に大別すると，散歩，趣味，勉強，その他の順に減少し，その割合は9：3：1.4：1の比率となっている。

つぎに来園者構成と目的との関係をみると第8図のようになる。すなわち，友人と散歩あるいは趣味のために来園することが多く，全入園者の約半数を占め，また，家族で散歩または趣味で来園するものが約¼となった。



第8図　来園目的と来園構成

しかし，勉強を目的として来園した者の中では，家族が64%，友人が30%，1人でが5%となっていることから，勉強を目的として来園する者の半数以上は，家族グループだともいえる。

6）「自然教育園は，どのようなところだと思いますか」について

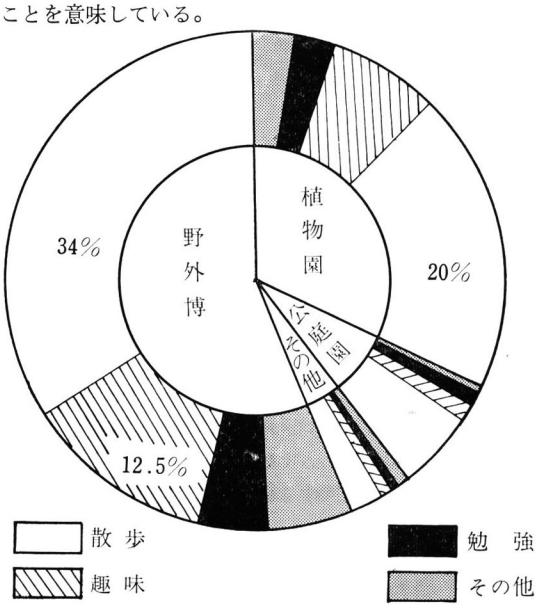
性別による差は，ほとんど認められず全体的には「自然林を保護しているところ」と答えたものが46%，ついで植物園32%，教育施設6%，野外博物館5.6%，公園4.4%，庭園3%となった。しかし，本調査を実施中にも，一般の植物園とはちがった，ここでいう野外自然博物館的な要素をもった植物園と解答している者が多くみられたことなどから，「自然林を保護しているところ」と解答した46%以上の人々が意識的にしろ無意識的にしろ自然林を保護している場所だと感じとったと結論してよいであろう。

第5表　来園者のグループ構成内訳表

項目 / 調査回数	1人で		家庭の者と		友人と		先生と		文化サークル		その他		無答	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
第1回	26	7	57	43	109	113	2	2	9	7	2	0	3	1
第2回	25	7	107	78	89	68	3	2	0	0	0	0	4	4
第3回	11	1	16	20	53	48	2	1	0	0	0	0	0	0
第4回	22	6	47	63	81	93	3	1	16	17	0	8	0	4
第5回	30	9	95	77	115	125	1	2	12	10	3	1	6	6
第6回	23	7	7	19	59	41	0	0	0	0	0	0	1	1
第7回	9	4	3	7	11	7	0	0	0	0	0	2	0	0
男女別計	146	41	332	307	517	495	11	8	37	34	5	11	14	16
総計	187		639		1012		19		71		16		30	

また，野外博物館（ただし野外自然博物館という意味で使用する）という解答が少ない理由の１つとして，この言葉や意味が一般に親しまれていないためではないかと思われる。しかも，実際には，「教育施設」や「自然林を保護しているところ」という解答はすべて包含されるものであり，ここでいう野外博物館に近い意味のものとして解釈できる。したがって，野外自然博物館と解答したものは，全体の58%とみてさしつかえあるまい。

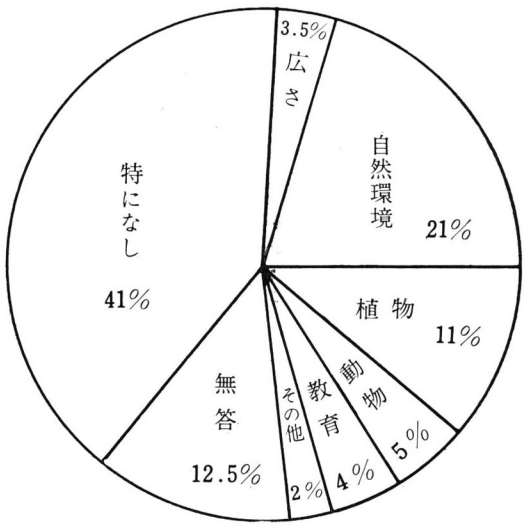
つぎに，それぞれ同じような意味の項目をあわせ，野外博物館，植物園，公園・庭園，その他の４項目に大別すると，58%，32%，7.4%，2.6%となる。さらに，来園目的との相関を示したのが，第９図である。これで明らかなように，野外博物館，公・庭園，その他の順位を保ちながら，散歩，趣味，その他，勉強という順位に組み合わされていることがわかる。したがって，野外博物館だと思って散歩にきている者がもっとも多く，34%をしめ，野外博物館でも植物園でも，また公園・庭園ともちがうと思いながら勉強にきている者がもっとも少ないことを意味している。



第９図　どんなところだと思い，どんな目的で利用しているか

7）「自然教育園の中で，どんなことがおもしろいと思いましたか」について

来園者が本園のどこに興味を感じたかについては，その質問方法が漠然としているうえに，人間の興味の広さや記入事項のニュアンスの違いなどがあって，すっきりと整理することができない。しかし，来園者が興味を感じた点を，①動物，②植物，③漠然とした自然環境のよさ，④広さおよび静けさ等，⑤教育普及施設部門，⑥わからないおよび特になし，⑦その他，⑧無答の８つに大別して興味の対象をわけると，第10図に示すように，圧倒的に多いのが，「わからないおよび特になし」41%であり，ついで「漠然とした自然環境のよさ」21%，植物12%，つぎに動物，教育普及施設部門がそれぞれ５%，「広さ静けさ」４%となり，無答13%となっている。したがって，約半数は，特に興味を感じないともいえる。



第10図　「興味を感じた対象」の内訳

さらに，来園目的との関連をみると，第６表に示すとおりとなる。

第６表　来園目的と興味ある事項との相関表（延数）

項目／目的	動物	植物	自然環境	広さ静けさ	教育普及施設	特になしわからない	その他	無答
散歩	53	127	236	52	47	553	31	157
趣味	24	59	101	7	17	144	9	55
その他	9	23	45	9	9	74	9	23
勉強	9	22	30	3	10	55	2	12

すなわち，勉強を目的として来園している人では，生物および環境（動物，植物および自然環境を含める）に興味を持っている者が半数，趣味で来園した者では，生物に興味をもった者が半数以上を示し，散歩を目的としている人々では，特にない・わからないが多数を示している。したがって，散歩（レクリェーション）を目的としている者の大部分は，自然環境があるから利用しているとも思われる。

このことから，ある程度興味の対象をもって来園する人は，勉強および趣味を目的としている約半数と散歩の約¼程度となるが，来園者の大部分は，ぶらりとやってくる傾向が強いといえる。

8) 「また来園したいと思いますか」について

これに解答した者は，調査総人数の約98%に当る1899名であった。このうち，来園したくないと答えた者は48名（2.5%）あり，他はまた来園したいと解答している。さらに，また来園したいと思うと解答した者について，1年間に何回ぐらい来園したいと思うか解答してもらった結果，2回がもっとも多く30%となり，つづいて1回および4回の14%，3回の11%となった。また，10回以上と解答した者が約9%となっている。しかし，これがそのまま本園に対する率直な解答であるとはいえないかも知れないが，少なくとも大部分の入園者が，消極的であるにせよあるいは積極的であるにせよ，本園に対してまた来園したいと解答していると考えてよいであろう。

ま と め

以上入園者の実態を項目別にみてきたが，これらを総合してみると，本園の入園者は，30才未満の若い人々で，国電あるいは，徒歩で来園する比較的近隣に居住している学生，会社員あるいは無職の人々によって，その大部分が占められている。

また，これら入園者は，友人や家族の人々とおもに散歩（レクリェーション）を目的としてし，自然林を保護しているところ（野外自然博物館）だということを漠然と感じながら利用し，また，なんとなく再び来園したいと思いながら帰って行くのが大部分であるということができよう。

性別による相違は，女性では無職の利用者が多く，1人で利用する者は男性に比較し少くないこと，また年令的にも男性よりやや若い世代に利用されていることであろう。

つぎに，休日，平日，学校が休みの平日別にみた入園者の相違は，年令に関して，それぞれ3つのタイプがみられた以外，ほとんど著るしい相違は認められなかった。

しかし，これだけの調査では，入園者の実態のすべての点を明らかにしたわけではなく，まだまだ多くの問題点を残しているので，さらに詳細な実態調査をいろいろな角度から試みなければならない。

追 録

この調査は，昭和38年3月から同年11月までの間に実施したものであり，現在の入園者の実態とは，必ずしも全ての項目にわたって同じであるということはできないであろう。しかし，現時点においても共通する多くの点を含んでいるといえよう。

なお，資料として，2～3の例を示す。

例 1：年別入園者数の変遷

年	37 年	38 年	39 年	40 年	41 年	42 年	43 年
入園者数	60,838	84,818	39,133*	75,325**	77,883**	76,033***	89,324
比率	100	139	—	124	128	125	147

* 高速道路通過にともない樹木等の移転のため2月～6月まで閉園。
** 3月末および7月末，8月の月曜開園
*** 3月末の月曜開園

昭和37年まで順調な入園者数ののびを示したが，昭和38年は，高速道路問題が具体化し，アンケートの結果にもあるように新聞雑誌等にとりあげられた結果等として，入園者の急激な増加をみている。その後は，5ケ月間の閉園などによる減少がみられ，最近になって再び増加を示し，43年は，前年の約1.2倍増となった。

例 2：月別入園者数の増減の傾向

(1) 増加の傾向がみられる月

月＼年	37 年	38 年	39 年	40 年	41 年	42 年	43 年
1 月	1,689	1,892	2,176	2,568	2,736	2,227	3,244
4 月	9,964	10,426	—	8,966	8,954	10,339	13,335
5 月	10,000	8,225	—	10,547	11,299	11,236	12,236
6 月	4,821	8,626	—	5,900	6,215	6,853	10,797
11 月	5,380	8,127	8,038	6,676	7,180	6,570	9,320
12 月	1,907	3,110	1,917	2,233	2,288	2,457	3,048

(2) 減少の傾向がみられる月

月＼年	37 年	38 年	39 年	40 年	41 年	42 年	43 年
8 月	6,744	13,066	11,305	8,464*	9,236	7,503	7,054
9 月	5,874	10,487	4,401	5,045	5,519	6,011	7,652

* 8月中の月曜日開園

一般には春と秋の入園者数は増加し，夏のそれは減少の傾向を示しているといえよう。

例 3：入園者の入園時間の傾向。

第2図に示したいわゆる午後1時前後にピークを有する午後型，2山の傾向は全く午後型と同じであるが午前11時にピークのある午前型および両者の組み合わされた中間型の3つのタイプがあることが，昭和43年4月，6月，8月，10月，12月の平日の晴天の日34日間の集計によって明らかとなった。

例 4：在園時間の傾向。

例3で行なったと同じ月日について，その在園時間を，30分単位として集計した結果は，昭和38年以前と同様，1時間～1時間30分在園する者がもっとも多く，全入園者の20～40%をしめ，30分以上2時間までは，65～95%と昭和38年以前と変わらない値が得られている。

（別　紙）

国立科学博物館附属自然教育園

ア　ン　ケ　ー　ト

バッチ番号＿＿＿＿＿＿＿＿

Ⅰ　被調査者の一般的条件

1）年令（就学前の幼児は省く）:〔小学校＿＿年，中学校＿＿年，高校＿＿年，大学＿＿年，大学院＿＿年，15～19才，20～24才，25～29才，30～34才，35～39才，40～44才，45～49才，50～54才，55～59才，60～64才，65～69才，70才以上〕

2）居住地：　東京都＿＿＿＿＿（区，市，郡）
神奈川県，千葉県，埼玉県
＿＿＿＿＿＿県

3）職　業:〔無職，教職員，学生・生徒・児童，公務員，園芸・農業・水産・蓄産関係，芸能・興業娯楽，教育文化施設・宗教・自由業，その他（具体的に）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿〕

4）自然教育園に到着する方法
自然教育園に到着する方法の図省略。
図のいずれかに印をつける方法をとった。

Ⅱ　調　査　事　項

1）自然教育園のあることをどのような方法で知りましたか。
〔友人から，家庭で，学校で，職場で，新聞雑誌等で，ラジオで，テレビで，趣味の会，研究会等自分の所属している会で，観光宣伝で，住んでいる間に何んとなく，その他（具体的に）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿〕

2）今までに何回来園しましたか。（今回を除く）
〔0回，1回，2回，3回，4～5回，6～9回，10回以上〕

3）はじめて来園したのはどのような年代でしたか。
〔就学前——小学校——中学——（高校——大学／15～18才）—学校卒業後結婚までの間——結婚後，はっきりしていない。〕

4）きょうは，だれときましたか。
〔1人で，家庭の者と，先生と，文化サークルで，その他（具体的に）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿〕

5）きょうは，何のために来園したのですか。
〔子どもの勉強，自分の勉強，自然物（動，植物）に趣味をもっているから，散歩（レクリエーション），この付近に来たついでに（特別の目的はない）。どんなところか見に来た，写生・俳句・写真をとりに，旅行（観光，休暇等）のついでに，その他（具体的に）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿〕

6）自然教育園は，どのようなところだと思いますか。
〔動物園，植物園，野外博物館，公園・庭園，教育施設，自然林を保護しているところ，その他（具体的に）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿〕

7）自然教育園の中で，どんなことがおもしろいと思いましたか。
〔具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿わからない，とくになし〕

8）また来園したいと思いますか。
〔いいえ，はい，年＿＿回〕

（御協力ありがとうございました。）